

刀剣史上初！日本刀の最古級の刀匠・安綱一門の
国宝・重文が春日大社に集結！

やすつな こほうき
「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」
2019年12月28日(土)～2020年3月1日(日)

平安時代に伯耆国（現在の鳥取県中・西部地域）に現れた鬼才、安綱とその一門。武家社会でその太刀は尊ばれ、秘蔵され、そして神へとささげられました。しかしその門流はいつしか途絶え、その作品は多くは残っていません。

2017(平成 29)年に春日大社で存在が確認された古伯耆の太刀もまた、中世の有力武将の奉納と伝わってきました。この話題を呼んだ太刀の発見を契機に、春日大社では、安綱をはじめ真守、安家、有綱など古伯耆の名刀の原像を調査してきました。

春日大社では、2019年12月28日(土)から2020年3月1日(日)まで、「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」を開催します。本展では国宝・重要文化財に指定された安綱・古伯耆のほぼすべての作品が、900年の時空を超えて、春日大社国宝殿に集結する画期的な展覧会となります。また日本刀は正倉院宝物などに見られる直刀ちよくとうから、刀工の祖とされる大和国やまとのくに(奈良県)の天國あまくにが作ったとされる小鳥造こがらすづくり(鋒両刃造)や毛抜形太刀けぬきがたちといわれる様式を経て、平安時代中期から後期にかけて美しい反りをもつ日本刀が成立しました。

こうした日本刀が成立する過程で安綱は、京都の三条宗近さんじょうむねちか・古備前刀工こびぜんとならんで、最古級の刀匠とされていることから、国学院大学所蔵の直刀(6世紀)から、春日大社が所蔵する鋒両刃造の国宝「黒漆平文飾剣」や国宝「金地螺鈿毛抜形太刀」きんじらでんけぬきがたち、大山祇神社(愛媛県)所蔵の「古神宝太刀」をはじめ、日本刀の発祥の地とされる大和、山城、備前の名刀をあわせて展示し、日本刀成立の謎に迫ります。なお、今回展示される作品には、素晴らしい拵こしらえ(太刀拵)が付いているものが多く、刀身と共に拵(外装)も併せ展示します。また、一説に安綱は奈良市袖ノ川町の出身で、刀剣に反りをつけた最初の刀工という伝承がのこされています。こうした説話がうまれる背景など、文化的側面からも安綱の謎、魅力にせまる画期的な展示となります。

「最古の日本刀の世界 安綱・古伯耆展」開催概要

【開催期間】 2019年12月28日(土)～2020年3月1日(日) ※下記日程で展示替

前期:12月28日(土)～1月26日(日) 後期:2月1日(土)～3月1日(日)

【休館日】 2020年1月27日(月)～1月31日(金)

【開催場所】 春日大社 国宝殿 〒630-8212 奈良県奈良市春日野町 160

【開館時間】 10:00～17:00(入館終了 16:30)

【拝観料】 一般 1000(800)円、大学高校生 600円、中小学生 400円

※()内は、前売及び20人以上の団体料金。前売券は10月下旬から、主要プレイガイドで発売予定。

【お問合せ】 春日大社国宝殿 TEL: 0742-22-7788 ホームページ: <http://www.kasugataisha.or.jp>

【主催】 春日大社、読売新聞社

【特別協力】 鳥取県、名刀「古伯耆物」日本刀顕彰連合

【展覧会の主な見どころと作品紹介】

●本展の見どころ

1. 天下五剣「童子切」^{どうじぎり}で有名な安綱一門の国宝・重文刀剣を一堂に展示！

源頼光が酒呑童子退治に用いたとされる太刀「童子切」(国宝)で名高い刀工、伯耆国安綱一門。本展では、国宝・重要文化財に指定された、そのほぼすべての刀剣が900年の時を超えて集結、刀剣展史上初めての展覧会となります。

2. 直刀から日本刀へー、その成立の謎に迫る！

安綱は、京都・三条宗近とならんで最古級の刀匠とされています。本展では、直刀から日本刀への変化の過程を示す、国宝・黒漆平文飾剣など、平安時代の日本刀成立期作品をあわせて展示、その成立の謎に迫ります。

直刀から反りのある日本刀へその変化を留める

国宝「黒漆平文飾剣(柄欠失)」^{くろうるしひょうもんかざりたち} 平安時代(9～12世紀)、奈良県・春日大社蔵

鋒が両刃造(小烏造)となり、やや腰反りがつく。茎は元から反るが茎形はほぼまっ直ぐとなり、柄は欠失している。本作は正倉院御物の金銀鈿荘唐大刀・無荘刀・黒作横刀などと同じ、鋒が両刃造となるものの、正倉院御物の切刃造とは異なり、刀身中央に鑄がくことから、直刀から日本刀(鑄造弯刀)の成立を考えるうえで貴重な資料である。なお、鞘口の形状や同類の飾剣から、正倉院の遺品と同様に、柄に縁、鐺をはめ込む様式になっていたと思われ、刀身の茎に鐺、切羽、鑄がつくいわゆる日本刀の様式とは異なる。



日本刀成立 初期日本刀の姿

「大山祇神社古神宝太刀」 11世紀、愛媛県・大山祇神社蔵

国宝「沃懸地獅子文毛抜形太刀」 12世紀、奈良県・春日大社蔵

鑄幅が広くほぼ中央に寄り、反りは浅く、鯰鋒。茎は強く反る。刃文は直刃で焼落とすという日本刀最初期の姿を保つ貴重な刀剣二振が出品。



大山祇神社 古神宝太刀



(上)春日大社 沃懸地獅子文毛抜形太刀刀身 (下)拵

重要文化財「太刀(銘安綱(鬼切丸))」 京都府・北野天満宮蔵

大江山の酒吞童子を切ったことから「鬼切丸」と名付けられた安綱の代表作で、北野天満宮の至宝を展示。



春日大社宝庫天井裏より発見

「太刀無銘(古伯耆 伝安綱)」 奈良県・春日大社蔵

戦前に宝庫天井裏から錆びた状態で発見され、平成 29 年に研磨したことで古伯耆の太刀として存在が確認された太刀。中世の有力武将の奉納と伝わるが奉納者や作者などは不明。この話題を呼んだ太刀の実像に迫る。



安綱をうんだ伯耆国大山山麓の至宝

鳥取県指定文化財「刀〈無銘(古伯耆)〉刀身と拵」 鳥取県・大神山神社蔵

中国地方最高峰・大山は鳥取県西部、伯耆国の中央に位置し、神仏が鎮まる霊山として信仰されてきた。この山麓では古くから日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」で良質な鋼を生産していた。

こうした背景をもとに、平安時代には反りのある日本刀の最古級の名匠である安綱がうまれた。安綱を輩出した地元に残る貴重な作品が県外初出品となる。



(上)刀身 (下)拵

米子市指定「太刀〈銘安綱〉刀身」 大神山神社蔵



【主な出品作品】

※記載は製作年代順に古いものから列記(同一刀工の作品については国宝、重文の順)。
出品作品・出品期間については現在調整中。

考古資料	直刀(6世紀)	國學院大學蔵
国宝	本宮御料古神宝 黒漆平文飾剣(柄白絞)	奈良県・春日大社蔵
国宝	本宮御料古神宝 黒漆平文飾剣(柄銀打絞)	奈良県・春日大社蔵
国宝	本宮御料古神宝 黒漆平文飾剣(柄欠失)	奈良県・春日大社蔵
国宝	本宮御料古神宝 黒漆平文太刀	奈良県・春日大社蔵
考古資料	毛抜形太刀(10世紀)	國學院大學蔵
国宝	金地螺鈿毛抜形太刀	奈良県・春日大社蔵
国宝	若宮御料古神宝 毛抜形太刀	奈良県・春日大社蔵
国宝	沃懸地獅子文毛抜形太刀	奈良県・春日大社蔵
国宝	沃懸地酢漿平文兵庫鎖太刀	奈良県・春日大社蔵
	太刀 無銘(古神宝)	愛媛県・大山祇神社蔵
重文	太刀〈銘安綱(鬼切丸)〉	京都府・北野天満宮蔵
重文	太刀〈銘安綱〉	和歌県・紀州東照宮蔵
重美	太刀〈銘安綱〉	大阪府・壺井八幡宮蔵
米子市指定	太刀〈銘安綱〉	鳥取県・大神山神社蔵
重文	太刀〈銘三条〉	岐阜県・南宮大社蔵
重文	太刀〈銘伯耆大原真守〉	和歌県・紀州東照宮蔵
重文	太刀〈銘真守〉	愛知県・津島神社蔵
重文	太刀〈銘有綱〉	東京都・富士美術館蔵
重文	太刀〈銘有綱〉	愛媛県・大山祇神社蔵
重文	太刀〈銘真行身ノ表二元龜元年辛巳八月八日大久保与九郎、裏二熱田大明神奉進在銘〉	愛知県・熱田神宮蔵
鳥取県指定	刀〈無銘(古伯耆)〉	鳥取県・大神山神社蔵
重美	古伯耆(伝安綱)	奈良県・春日大社蔵

★この他、国公立博物館を中心に2点の国宝、5点の重要文化財等が出品予定です。
詳細が決まりましたら随時発表いたします。